

源氏物語

天壤文庫



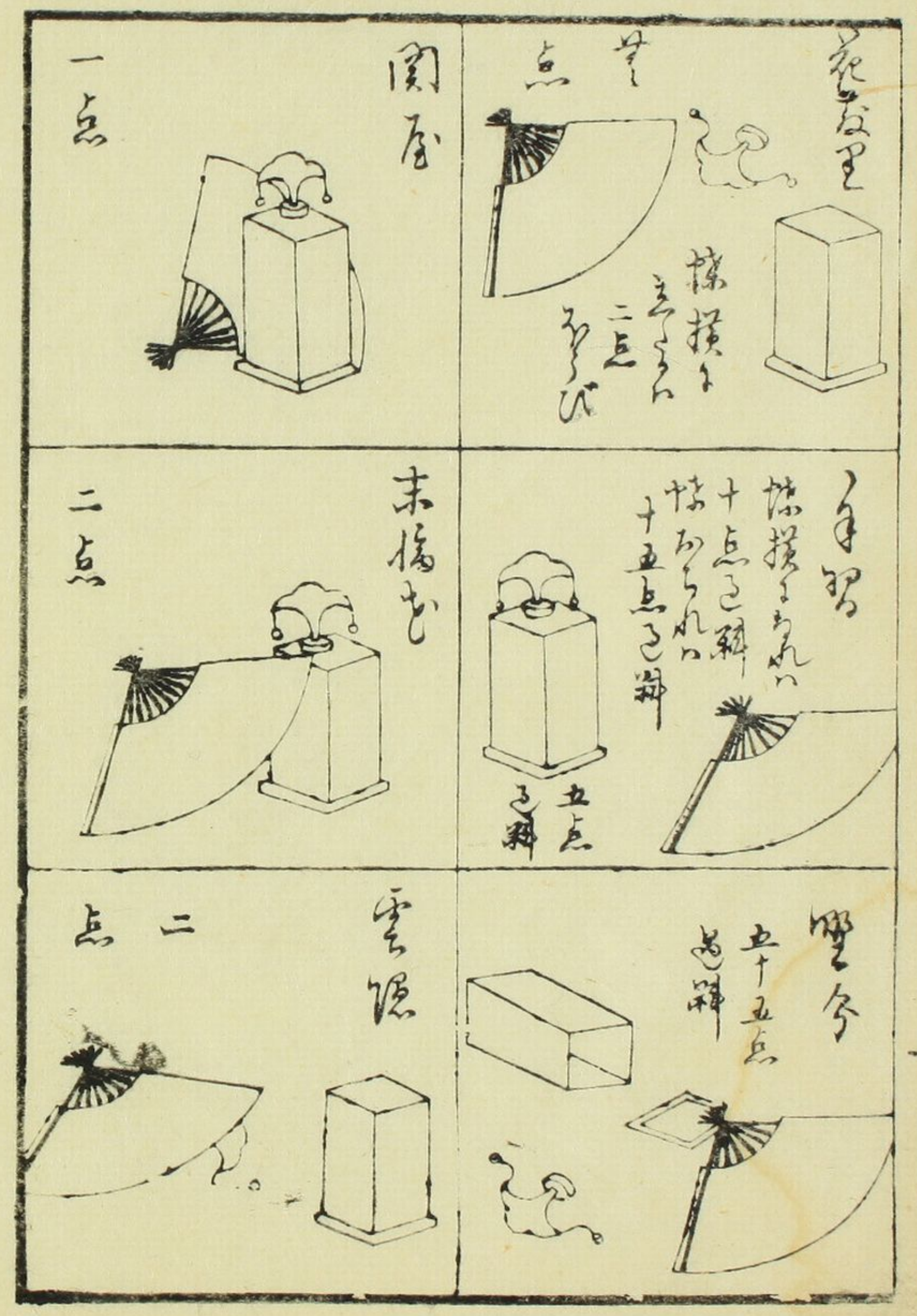
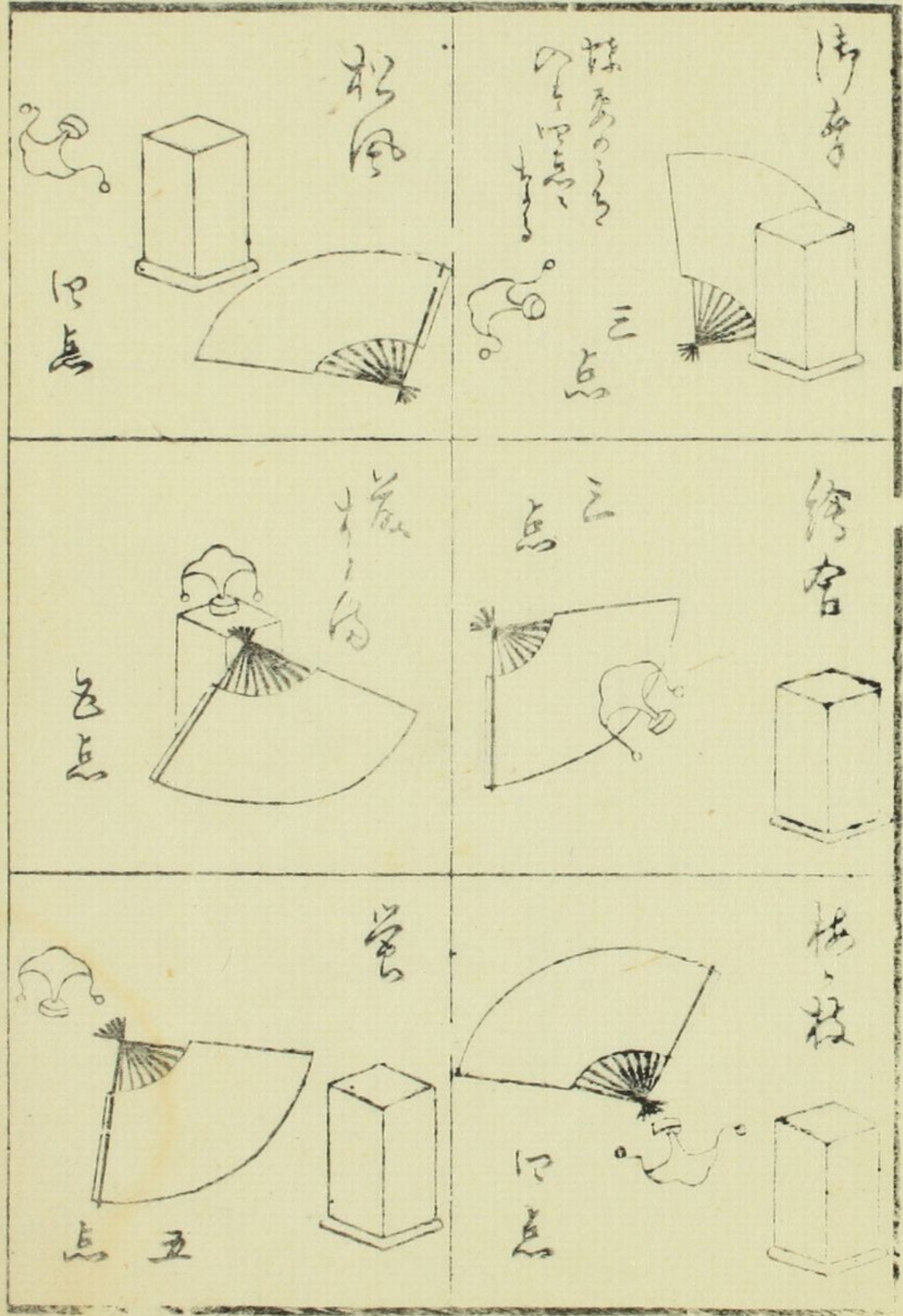
投扇真仕候
 御墨を立や
 ちつりう扇を
 ひきた幅の
 所を座をわし
 一様う扇を
 ちつりう扇を
 ひきた幅の
 所を座をわし
 一様う扇を

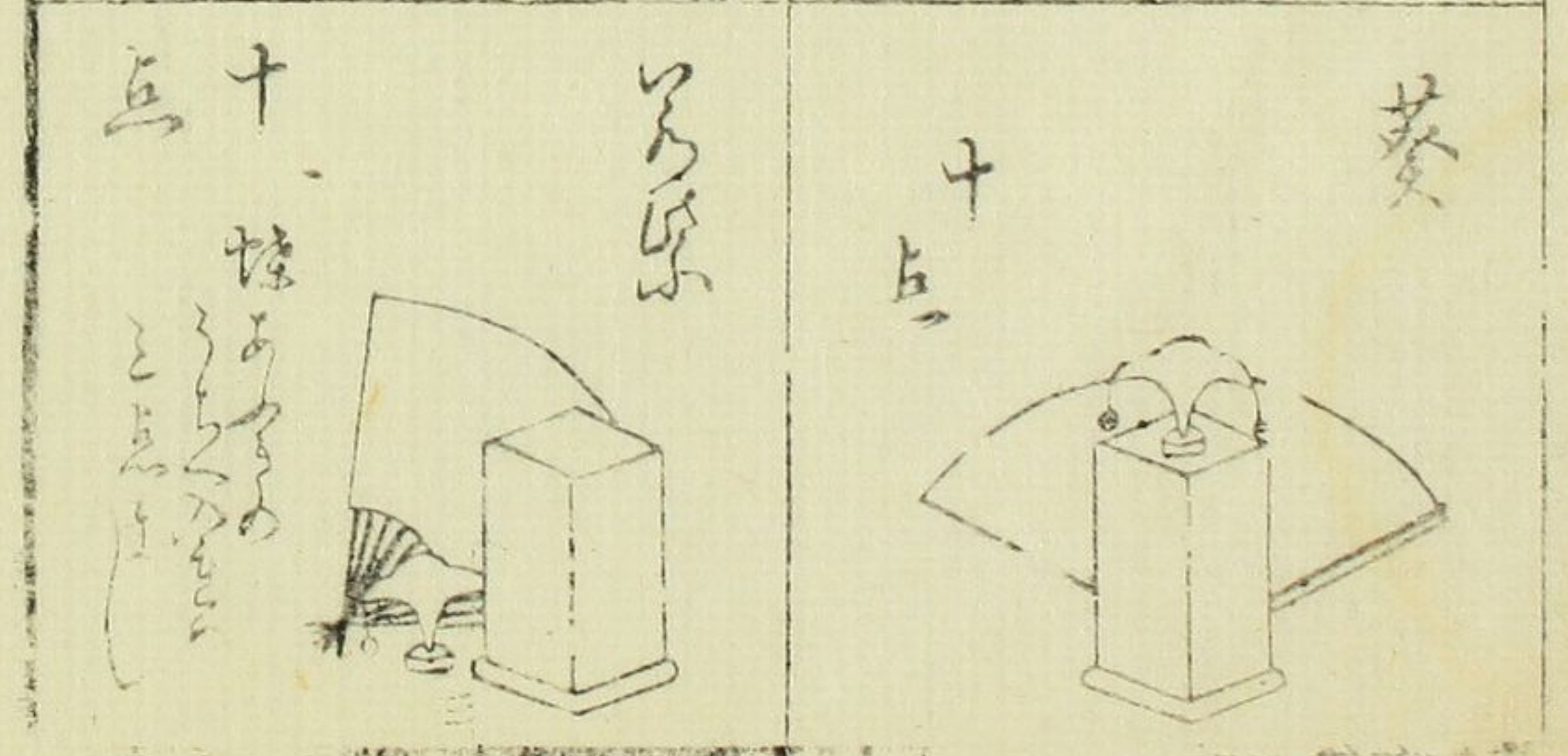
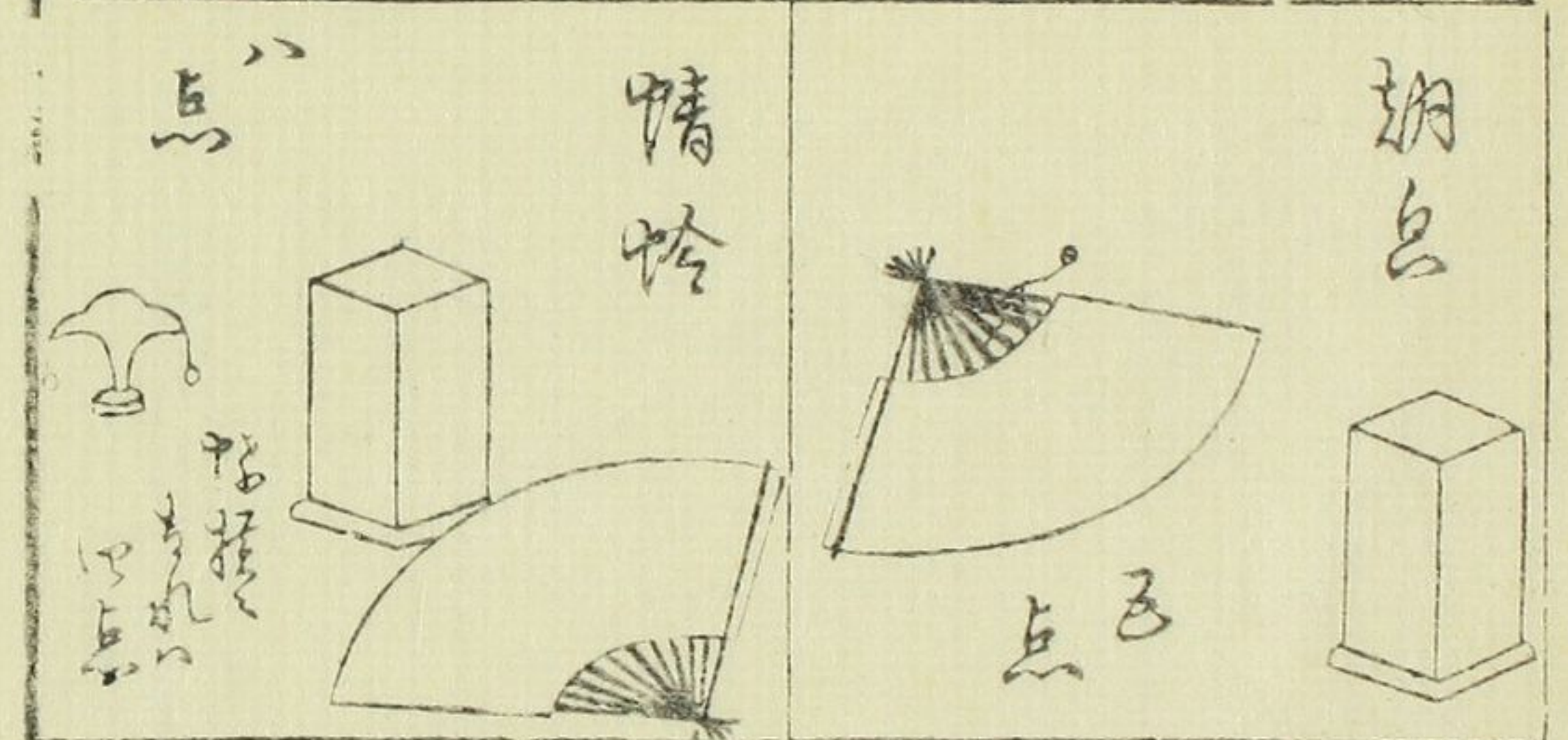
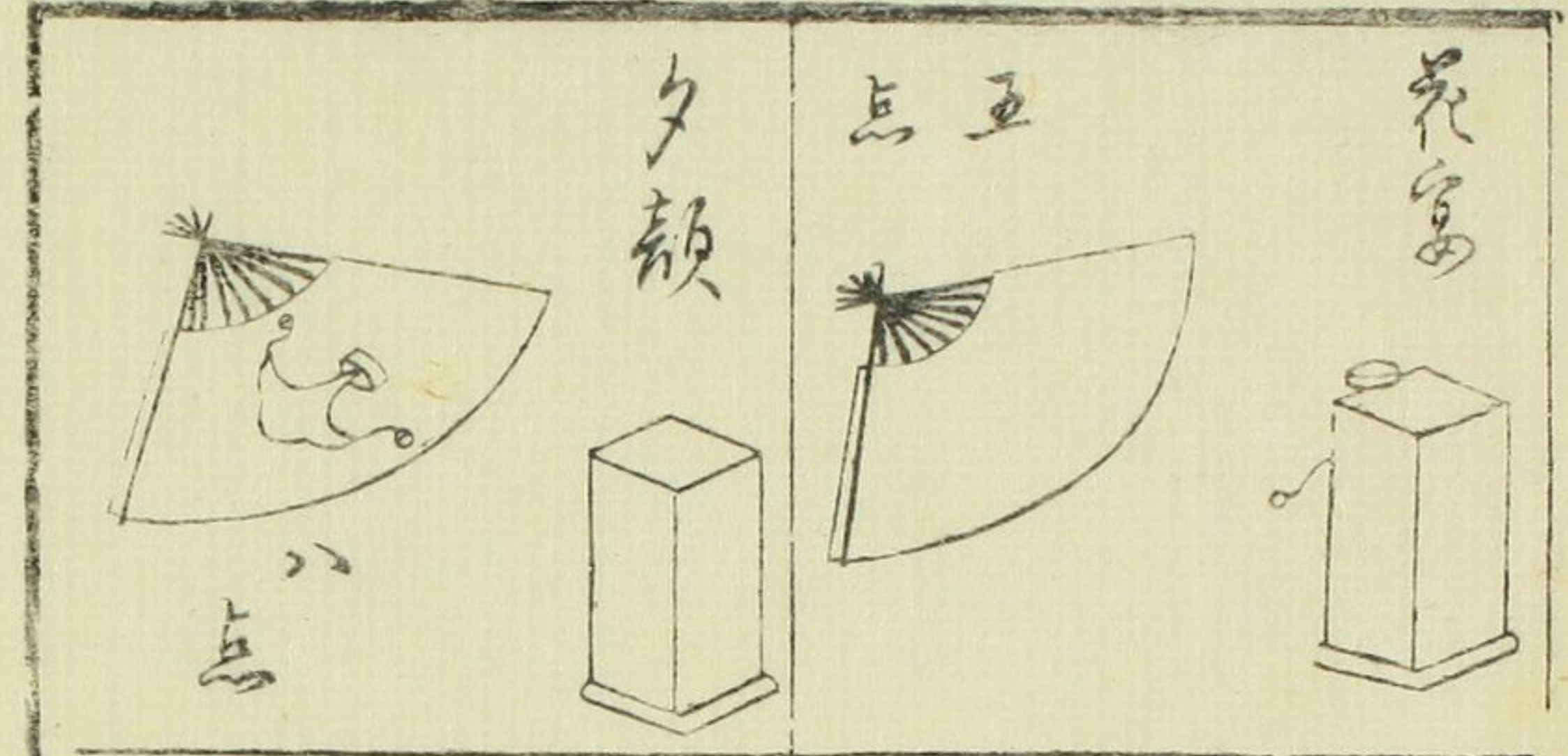
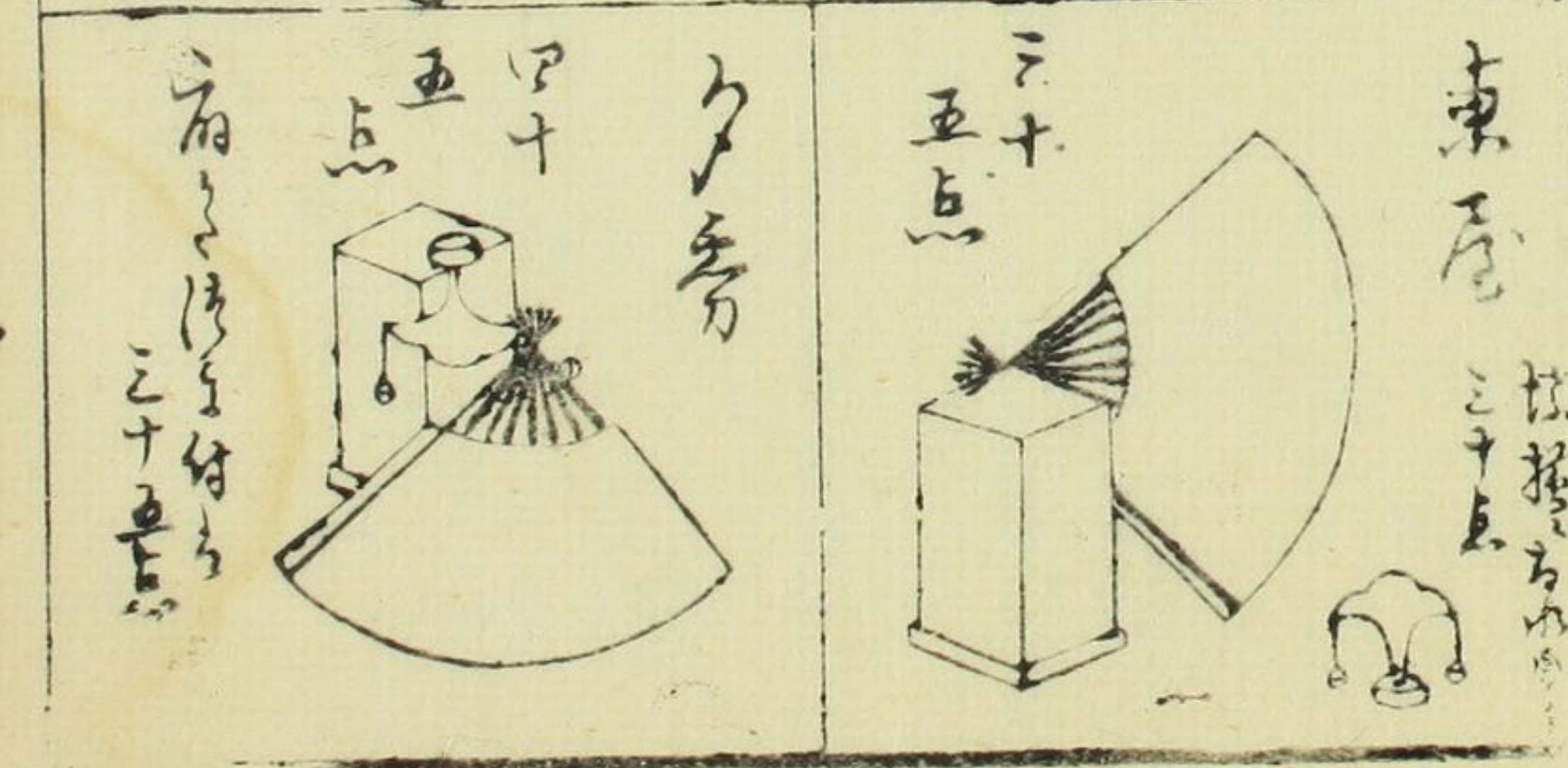
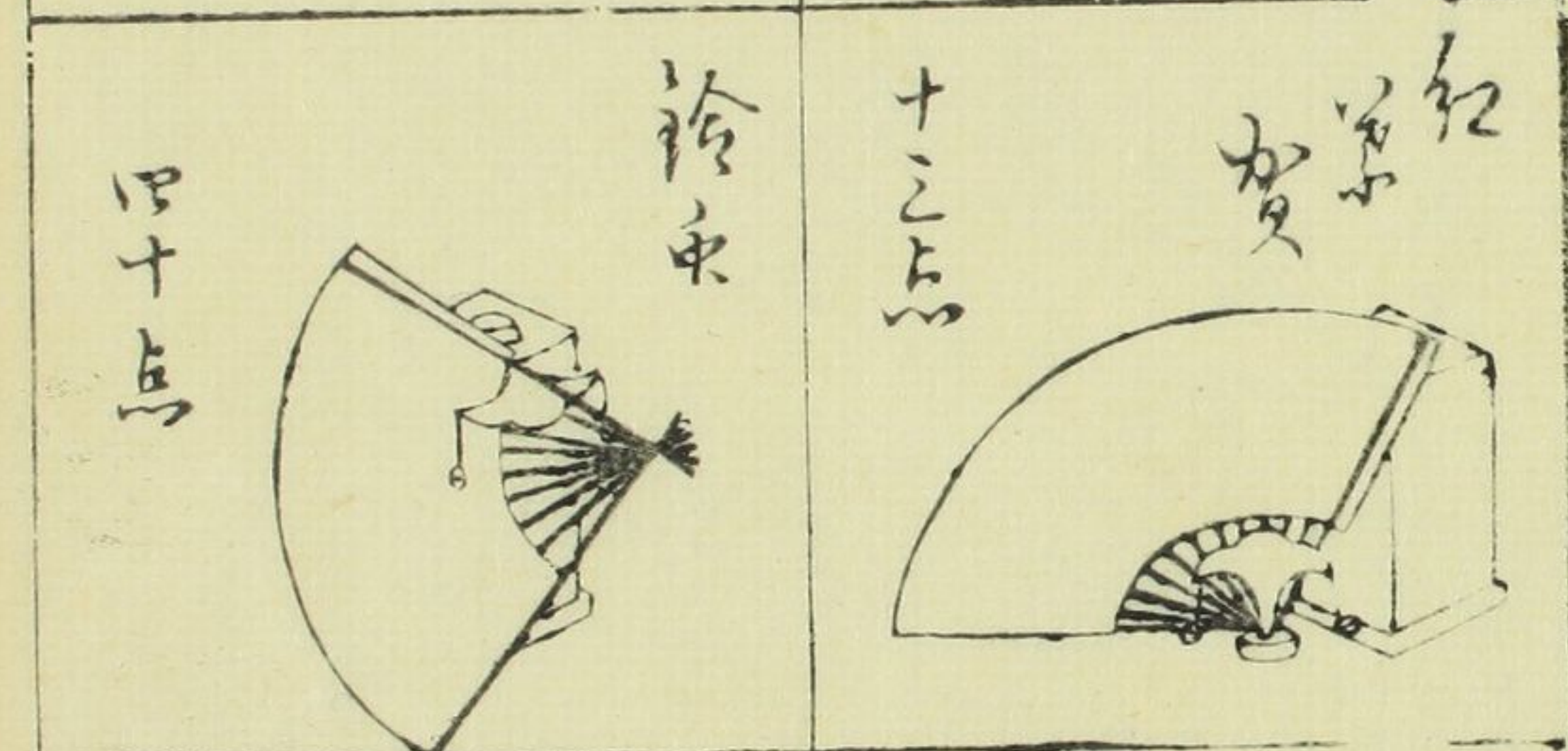
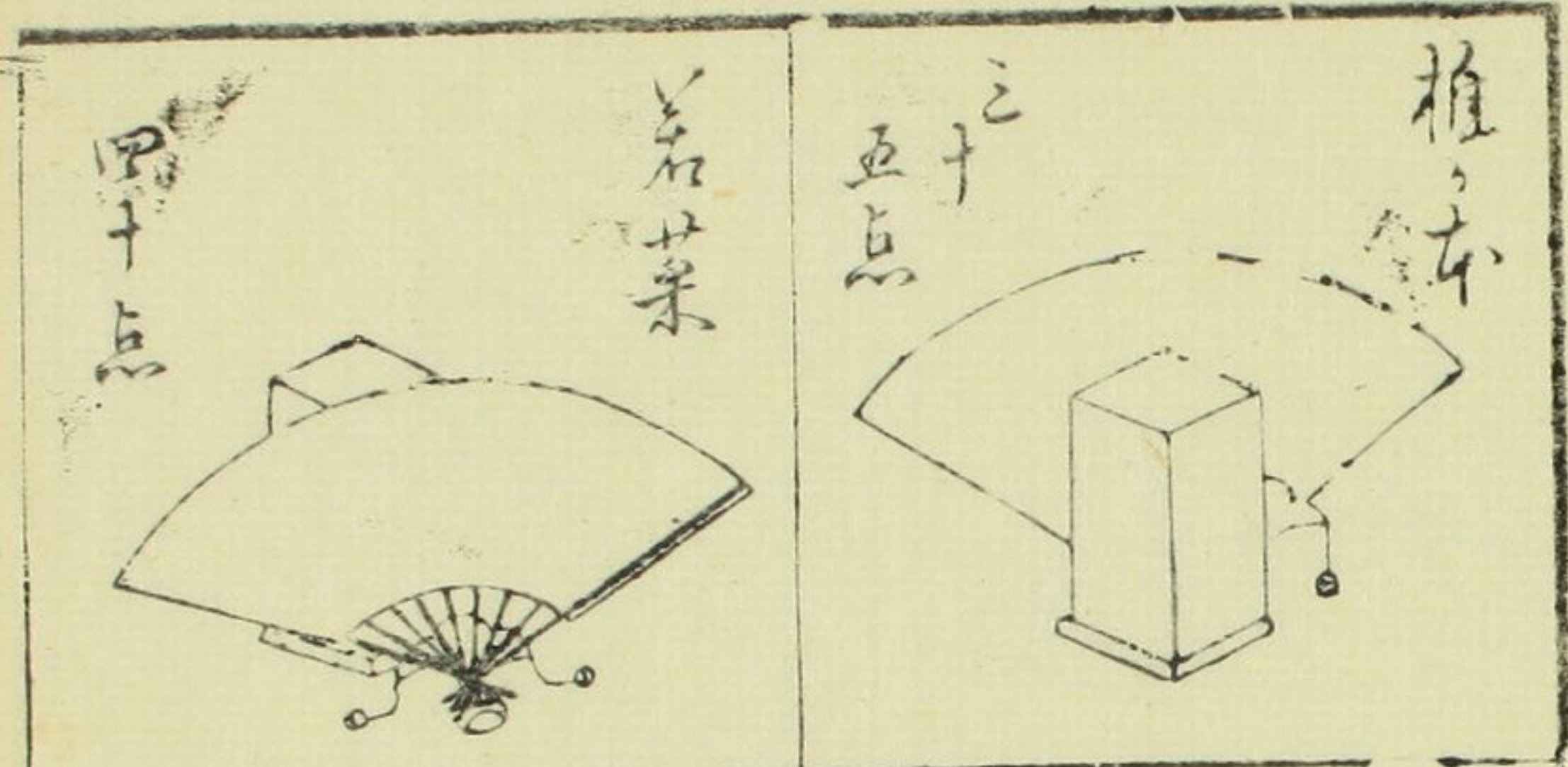


扇をひきた幅の
 所を座をわし
 一様う扇を
 ちつりう扇を
 ひきた幅の
 所を座をわし
 一様う扇を

投扇真仕候
 御墨を立や
 ちつりう扇を
 ひきた幅の
 所を座をわし
 一様う扇を
 ちつりう扇を
 ひきた幅の
 所を座をわし
 一様う扇を

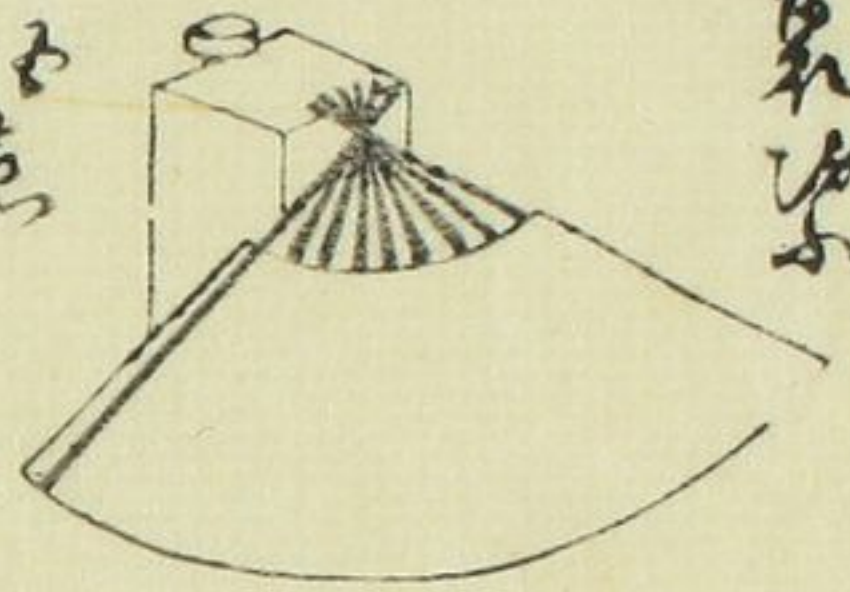
成の
 成の





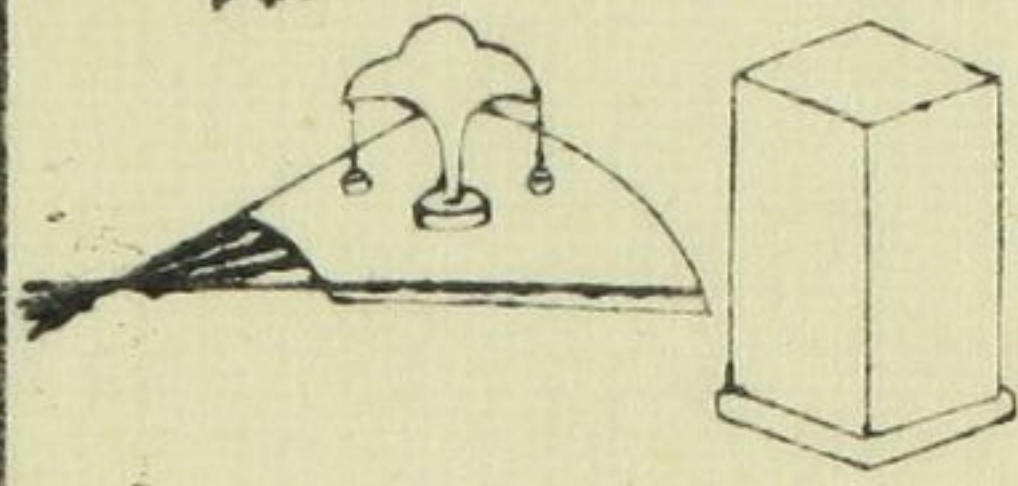
藤裏染

四十点



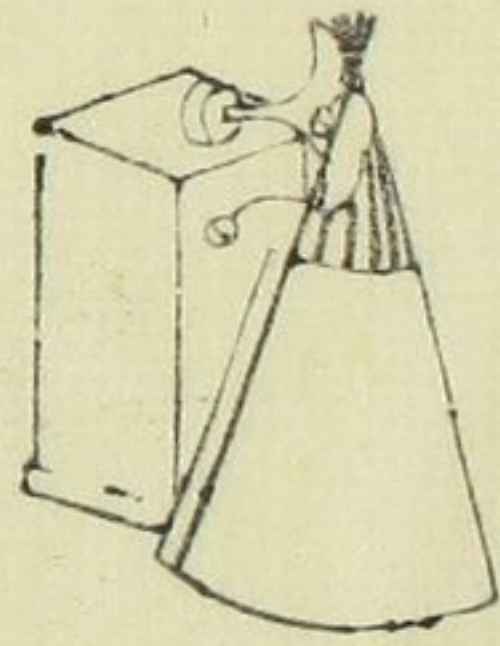
横笛

五十点



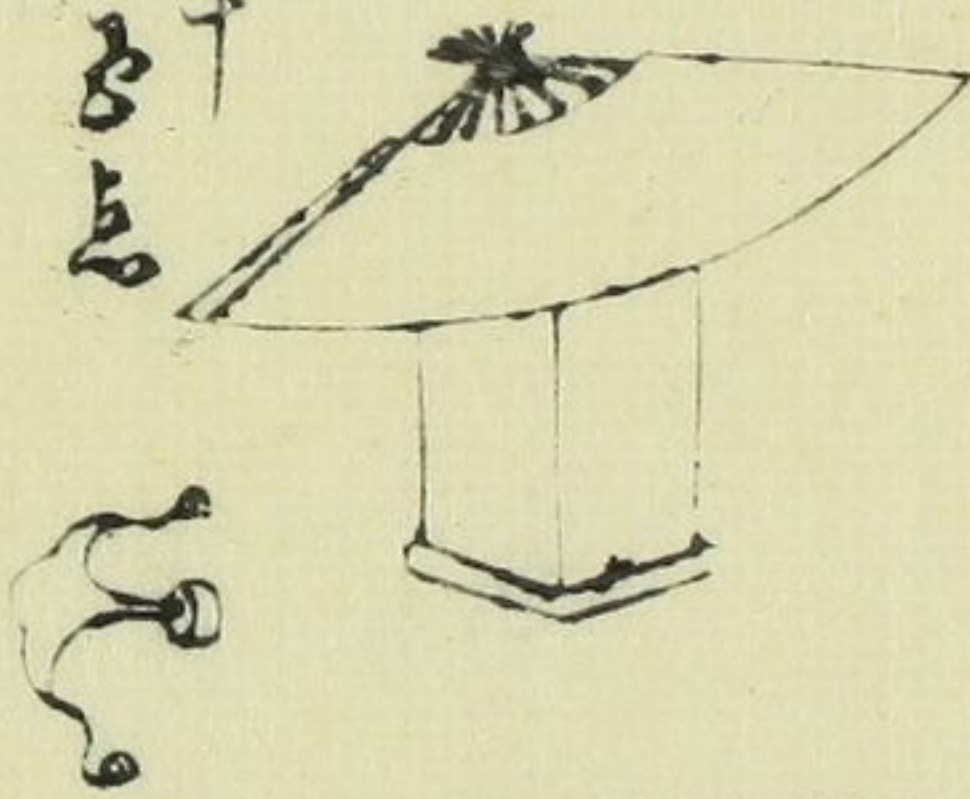
常反

五十点



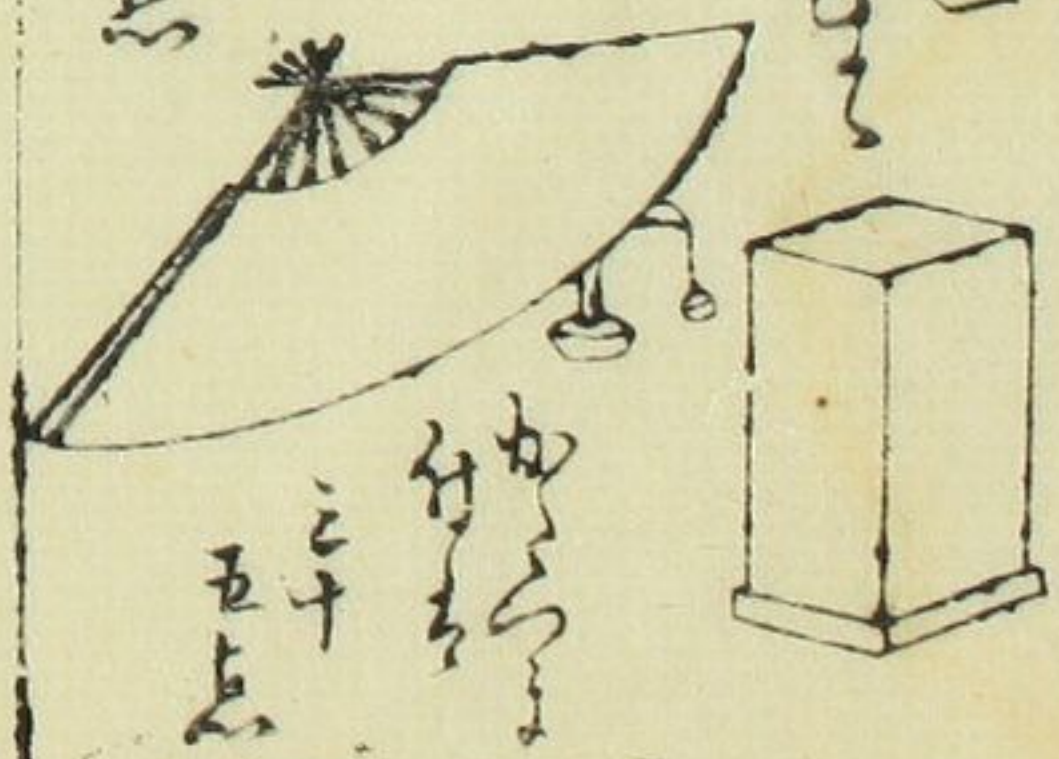
標清

五十点



蓮生

五十点



乙女

二十点



安永之世に於ては昔様なりて、投扇興武の
小冊を師範の如く、少少修めたるに、
其の第一、寛政の如く、扇の包より、
席巻、表十二組、裏六組、本歌、
扇の包を、その如く、扇の包より、
扇の包を、その如く、扇の包より、
扇の包を、その如く、扇の包より、
扇の包を、その如く、扇の包より、

才一番 天智天皇

秋の田舎の宿の夜更けの如く、
扇の包を、その如く、扇の包より、

銘前穂 点倍二十五点

廣義

